

講評

I

出典『大学の下流化』（竹内洋）NTT出版

大衆社会の中で進行する「大学の下流化」とも呼ぶべき現象に着目し、日本の「知」について論じた本です。多少硬い言葉で書かれていますが、論旨は明快なので、決して難しい文章ではありません。

問2【漢字の読み方に関する問題】（解答番号は2）

漢文だけでなく現代文にも頻繁に見られる「所以」は、「ゆえん」と読みます。正答率は59%でした。

問3【漢字問題】（解答番号は3～10）

正答と正答率を示しておきます。

c 無償(81%) d 俗物(75%) e 含羞(6%) f 真髓(50%)

問4【空欄補充・前後の文脈から接続語を導き出す】（解答番号は11～13）

空欄Ⅰには逆接のつなぎ方をする接続語が、空欄Ⅱには対比的に補足説明する接続語が入ります。間違いが多かったのは空欄Ⅲです。ここは前の内容を受けて結果を示す順接の接続語よりも、前の内容にさらに詳しい内容を付け加える添加の接続語の方が適切です。完答ということもあり正答率は6%でした。

問5【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は14・15）

教養主義としての読書という観点から考えると、空欄甲に入る最も適当な言葉は、人間の理想としての普遍的価値を示した⑤「真善美」です。⑥「好奇心」を選んでいる受験者がかなりいましたが、直後の「人格の向上」、「社会の改良」という言葉と並列になりうる内容を考えると、単なる好奇心の追求としての読書は当てはまりません。正答率は3%でした。空欄乙は容易にわかるでしょう。正答率は94%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

本文をよく読めば、①～⑤にはそれぞれ本文の内容と異なることが書かれていることに気づくはずで。正答率は78%でした。

問8【内容を理解して該当しないものを選択する問題】（解答番号は18）

嗜み系ではなく溜め込み系の教養になる教養主義の原型となった例として、本文に『善の研究』（西田幾多郎）が挙げられています。①「バタフライ（水泳）」を選ぶ受験者が比較的多かったですが、嗜み系の教養である高等学校生たちの教養の一つとして「モダンでハイカラな近代的スポーツ」が本文中で挙げられています。正答率は66%でした。

問9【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は19）

この節の最後にある「教養人と教養主義者は似て非なるものである」という言葉が大きなヒントとなります。①「ニューアカ・ブームの功罪」を選択した受験者が散見されましたが、「功罪」についてまでは本文で言及されていません。正答率は47%でした。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は20）

この節では嗜み系と溜め込み系の教養の違いについて述べられていますから、正答を選択するのは難しくはないはずです。③～⑥を選択した受験者もいましたが、③・⑤・⑥は著者の主張にはなく、④はこの節全体の内容を考えると部分的です。正答率は56%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は21・22）

⑥を選択した受験者が多かったのですが、筆者は「新」教養主義の体験者ではありません。⑦を選んだ受験者も散見されましたが、嗜み系の教養人は知識量の増加を追求しませんから本文の内容に合致しません。①・③は明らかに本文の内容と異なります。②は「ひたすら没落の道をたどっており、まことに嘆かわしい限りである」が、④は「文化を深く味わうことのできる教養人を目指したため」が、⑤は「人格主義や社会改良主義を欠いていたがために」が本文に書かれていません。正答率は6%でした。

Ⅱ

出典『唯脳論』（養老孟司）ちくま学芸文庫

内容を掴むことに苦戦した受験者が多かったようです。受験者には、特定の作品だけでなく幅広い書物を読むように心掛けて欲しいと考えています。

問1【漢字問題】（解答番号は23～32）

正答と正答率を示しておきます。

a 厳密（91%） b 終始（84%） c 素養（59%） d 恐慌（53%） e 剰余（59%）

漢字の書き取りは繰り返し勉強していれば点数が取れます。日頃から継続して漢字の練習をするようにしましょう。

問2【空欄補充 副詞の用法】（解答番号は33～35）

いわゆる呼応の副詞といわれるものです。内容はもちろんこと、文末表現にも着目して正答を導き出すようにしましょう。正答は空欄Ⅰが③、空欄Ⅲが②、空欄Ⅳが⑧です。正答率25%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】（解答番号は36・37）

空欄Ⅱの前段に子供に教え込むことが書かれています。①が正答です。正答率は63%でした。空欄Ⅴの直後に「もし進化の最初期の～」と書かれている個所がヒントです。③が正答となります。正答率は13%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号は38）

空欄甲の直後にある「ここが違うのではないか」がヒントです。正答は⑤です。正答率は38%でした。

問5【空欄補充 内容把握】（解答番号は39）

空欄乙の直後にある「機能の進行の手続きに厳重な規定があり」がヒントです。正答は⑥です。正答率は22%でした。

問6【傍線部の説明 内容把握】（解答番号は40）

傍線部Aの前の段落に「同時に起こる過程」と書かれています。どちらか一つだけで書かれている選択肢では間違いとなります。本文を丁寧に読みながら筆者の意図するところを押さえるようにしましょう。正答は②です。正答率は22%でした。

問7【傍線部の説明 内容把握】（解答番号は41）

筆者は「無益な能力」と述べていますが、実際にはこのような能力を必要だと言っています。この点を把握した上で、第一節最終段落の内容を押さえる必要があります。正答は②です。正答率は25%でした。

問8【内容合致】（解答番号は42・43）

正答は②・③です。受験者には難しい問題であったようです。正答率は19%でした。